



氏名 井戸 和秀(いど かずひで) 1946年生
所属 教育学部・幼児教育・教授
TEL 086-251-7695(ダイヤルイン)
FAX 086-251-7695
E-mail ido@cc.okayama-u.ac.jp
H P <http://ed-www.ed.okayama-u.ac.jp/~youji/index.html>

ひとこと：音楽教育が専門で、特に幼稚園から小学低学年にわたる「幼小連携」における幼児の音楽教育を中心とした研究を行っています。
内容としては、幼児が主体的に獲得していく音楽を、主に研究しています。

1. 幼児の音楽概念

幼児は大人とは相違する独特の音楽概念を有するか、もし有するとすれば、どのような内容であるか等について追究しています。

2. 幼児の発達と音楽

幼児が成長していく上で、音楽がどのような役割を果たしているのか、その意義と内容について追究しています。

3. 音楽指導の概念

幼児に音楽を指導するという事は、どのような概念が必要とされるのか、また、その指導の内容と方法は何か等について追究しています。

4. 表現における音楽概念と内容

音楽を表現するという事は、どのような意義と内容を有するのか、また表現する際、音以外でも表現可能なのか等について追究しています。

5. ピアノ教育

ピアノ教育は、一般的に指導者の考えを一方向的に伝える上意下達方式によって行われており、習う側の考えや感性が無視されることが多い。それに対して、習う側に立ったピアノ教育を研究しています。



3歳8ヶ月のT男が歌った即興歌
井戸和秀編著『幼児の音楽的表現とその環境』(1996, 大学教育出版, 66頁より転載)

キーワード：音楽教育学、幼児教育、音楽社会学、ピアノ教育

キーワード用語集（井戸和秀先生）

音楽教育学・・・・・・・・胎児から大人までを対象とした音楽に関する学問である。この学問では、音楽だけでなく、視覚や触覚、味覚、嗅覚との関連についても追究する。また、この学問を支える学問として、哲学、歴史学、教育学、民族学、心理学、社会学、音響学、生理学、メディア論、楽器学等が考えられる。つまり、音楽教育学は、ひとつの学問分野というのではなく、種々の学問が総合的に構成されたものとして考えるべきのものである。

幼児教育・・・・・・・・この分野は、乳幼児を対象としている。幼児教育は、人間教育の基礎であり、その人の将来の礎を築く。したがって、幼児教育は、最も注意を払って行われるべきである。その教育内容や方法は、人間がよりよく生きていく上で必要な資質を育むためのものが設定されている。

音楽社会学・・・・・・・・音楽は単独に存在するものではない。音楽は人間の社会生活の中で誕生し発展してきた。その音楽内容は、子どもの即興的な音楽から芸術音楽に至るまで、種々のジャンルと内容を有している。つまり、音楽社会学とは、人間及び人間の社会生活と音・音楽との関連を追及する学問である。
日本の音楽文化は、音楽のショーウィンドーと呼ばれる。つまり、世界各国の音楽が氾濫しているのである。そのような音楽文化の中で、我々はどのようにして音・音楽と付き合っているのかを究明するのが音楽社会学である。

ピアノ教育・・・・・・・・ピアノは猫が鍵盤の上を歩いても、音が出る。しかし、それは音楽ではない。音が音楽になるためには、人の意志（思い）が前提である。その意志が前提となって、ピアノ教育が行われるべきである。しかし、実際は楽譜を音へと変換しているだけで終わっている演奏もある。芸術的な演奏を相手に分からせ、表現へと結びつける際、重要なことは、演奏する本人の意思がどこまで尊重されるかである。
ピアノ教育において、単なる真似から意志を持った表現へと変化させることができるのは、教師の意志の問題である。特に、幼児期には情緒に支配され、感性が飛躍的に伸びる。したがって、この時期におけるピアノ教育は、幼児の感性に留意した指導が必要である。